

大西さんとの思い出

萩野浩一（京都大学）

大西さんは、人の研究を何でも面白がって聞かれる方でした。そのために幅広いバックグラウンドをお持ちで何に対しても一家言があり、国内外問わず交友関係が広い方でした。それはまさに共同利用研としての基研にマッチしたもので、基研の教授として大西さんは最適任の方だったと思います。私がまだ大学院生のときに大西さんはポストクの1年目か2年目だったのですが、当時どの研究会に行っても大西さんが必ずいて活発に質問している、というので有名でした。大西さんの幅広い興味はこの時に既に現れていたのだと思います。

学生の頃の思い出といえば、私がD3の年の6月にガトリンバーグ（テネシー）であった国際会議 NN97 に参加したときのことを思い出します。この時、大西さんも参加されていたのですが、「萩野君、君の発表には隙がない。もう少し隙を作って聴衆が質問できるようにするといいよ。あえてポイントをぼかして言うとか。」というアドバイスをいただきました。このアドバイスがあったためかどうかは分かりませんが、2012年10月にバルセロナであった HYP2012 では大西さんにトークをほめられました。夕食のときに、「萩野といい原田（融さん）といい、名字が『は』から始まる人はトークがうまいですね」という大西さんの発言があり、「何を根拠のないことを。。。と岡真さんに言われていたのを今でも懐かしく思い出します。

サイエンスもそうなのですが、大西さんは事務能力も抜群に高い方で、核理論委員を若いときから長年にわたって務められていました。大西さんご自身は、「一旦核理論委員になるとなかなか抜けられない」、とブツブツ言っておられましたが、本当に細かいことまでよく覚えておられ、大西さんに聞くと何でもわかるという感じでした。大西さんが核理論委員長をされたときに私が幹事だったのですが、大西さんをいつも頼りにさせていただけていました。

私が京大に着任してからは、同じ京大核理論グループの教員として共に研究、教育に携わる幸運に恵まれました。菅沼さんとの掛け合いもさりながら（お2人は京大の同級生でお互いにお互いを尊敬しあっているのが傍目からも明らかでした）、大西さんの学生に対する接しかたや励まし方は見習うことが多くありました。昨年（2023年）の3月末に、京大の市民講座の担当の依頼が核理論にあったとき（実はハワイ学会のために一度断ったのですが、他の研究室が来年度を強く希望したので再依頼がありました）、「来

年度は核理論がやるので今年度は他がやって欲しい、と交渉するべき。ちょっとした無理をすぐに聞いてもらえると軽く思われていないか。」という趣旨のことを（その時すでに自宅療養中であった）大西さんがメールで言われたことがありました。メールの文調はいつになく強いもので、私自身は普段の大西さんらしくないと少し思ったのですが、今から振り返ると、大西さんは最後の力を振り絞って京大核理論の今後のことを思いながらの発言されていたのだと思います。今後は、大西さんから託されたバトンを大事に受け継ぎ、京大核理論やコミュニティーのために力を尽くしていけたらと思っています。心から大西さんのご冥福をお祈りします。

下に、2016年6月にイスタンブールであったサマースクールに大西さんとともに講師として参加したときの写真を掲載します。大西さんとの懐かしい思い出の一つです。

